

法政アクティブリサーチ 成果報告書

(2017年後期～2018年前期)

牛尾洋也クラス
濱中新吾クラス
石塚武志クラス
今川嘉文クラス



You,
Unlimited



龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY

はじめに

2004 年（平成 16 年）4 月に法科大学院の制度が創設されて以降、法学部教育の目的の変化や社会情勢の変化を受け、全国の法学部教育をめぐる状況はますます厳しいものとなり、法学部の教学方針やカリキュラムの改変が検討課題とされてきた。

他方で、2012 年（平成 24 年）8 月の文部科学省中央教育審議会の答申において、「アクティブ・ラーニング」（能動的学修）という言葉が積極的に登場し、大学教育全般において、従来の講義形式の受動的な教育だけでは果たせない、生涯学び続け、主体的に考える力を育成する課題を担って、能動的な授業方法を導入すべきことが提唱された。

法学部教育および大学教育のあり方をめぐる新たな動向を見据え、龍谷大学法学部も 2013 年以降、様々な検討委員会を発足させ、課題の整理および克服のために検討を重ねてきた。法科大学院において既に双方向型の教育メソッドの提唱・導入等が図られる一方で、文字による法規範や原理のより基礎的な教育を担うべき法学部にあっては、学生の学力や関心の程度に応じて、従来の大人数による講義形式の教育自体がきわめて難しくなり、上述の検討課題は、新しい理想的な教育方法を求めることにとどまらず、むしろ現状対応的な側面も否定できず、大学における法学部教育の課題解決の多面性、相互関連性が浮上した。

こうしたなかで、私たちは、法学部教育の強みである法律学、政治学の確実な知識とリーガルマインドの素養をベースとしつつ、法学部における学びの職業的「意義」を学生が自覚し、主体的な学びを実践することを目指し、その中で、学生の自主的学習の促進のため、より社会に開かれた実践的で自主的なアクティブ・ラーニング型・プロジェクト型の科目設置の提案を行った。

この改革の提案は、龍谷大学の教学プロジェクトである「2016（平成 28）年度 龍谷 GP（Ryukoku Good Practice）」に採択され、2016 年 4 月より 3 年間の計画で、「法学部版アクティブ・ラーニング推進事業」の取り組みを行い、その成果の一つとして、2017 年後期から、「法政アクティブリサーチ」という正課科目を新設し実施してきた。本報告書は、当該科目において学生たちが取り組んできた 1 年間の活動成果をまとめたものである。また、科目運営等の実践する中で発見した問題や課題の克服に関して、講義を担当した教員からの率直な意見も併せて掲載した。今後、アクティブ・ラーニングを実践する上で、何らかの参考になれば幸いである。

最後に、この科目を実施するにあたり、法学部教務課、GP 委員会の各教職員の多大な尽力は不可欠であった。さらに、共通講義およびクラス別のフィールドワーク活動において、多くの方々から多大なご協力いただいた。実社会の最前線の取組みに触れる中で「学び」を経験した学生たちが、諸課題の解決に向けた次世代の力となることを祈念しつつ、この場を借りて深く感謝を申し上げたい。

2018 年 6 月 20 日

龍谷大学法学部 GP 検討委員会

2017-18 年度 法政アクティブリサーチ担当者

牛尾洋也、濱中新吾、石塚武志、今川嘉文

～総 目 次～

はじめに	龍谷大学法学部 GP 検討委員会 2017-18 年度 法政アクティブリサーチ担当者 牛尾洋也、濱中新吾、石塚武志、今川嘉文
アクティブ・ラーニングを通じた学びについて	牛尾 洋也
地方自治体の中東和平プロジェクト	濱中 新吾
「法政アクティブリサーチ」初年度の担当を経て	石塚 武志
企業経営者および士業関係者への取材活動と考察を通じて	今川 嘉文
第一期（2017 年後期～2018 年前期）法政アクティブリサーチの記録	細川晋大朗・野間元綺

各クラスの調査報告書

牛尾 洋也クラス

岐阜県内における地域資源を活かしたまちづくり

はじめに

第一章「食と農の景勝地制度から見る住民自治のあり方」

犬丸祐輔・澤村奈叶・山口修平・湯川希 牛尾クラス

I 春合宿調査活動報告	p38
II 食と農の景勝地	p41
III 地方創生	p48
IV フィールドワークを含む活動からの学び	p50
V 総括	p51
V AR からの学び	p51
VI 参考文献	p52

第二章「世界農業遺産による環境保全への広がり～長良川システムから考察～」

鈴木彩有里・中田景子・前田祐希・安田奈於 牛尾クラス

I 世界農業遺産とは	p53
II 春合宿調査活動報告	p53
III 比較検討	p59
IV フィールドワークを含む活動からの学び	p61
V おわりに	p63

第三章「歴史的なまちなみを活かした景観まちづくりの現状と展望」

斎藤菜乃子・田中康太・浜井敦仁・本田大輝 牛尾クラス

I	景観とまちづくり	p64
II	春合宿調査活動報告・ヒアリング成果報告	p68
III	各地域の課題と特徴比較	p76
IV	私たちが考える歴史的なまちなみを活かした景観まちづくり	p79
V	総括	p80

第四章「日本遺産を構成する文化財群の保護と観光施策のバランス」

大神智也・大谷敬貴・小池陣矢・前田祐也 牛尾クラス

I	調査活動報告	p81
II	日本遺産と文化財の保護・活用について	p85
III	文化財保護と観光施策とのバランス	p87
IV	総括	p89
V	フィールドワークを含む活動から学び	p90
VI	参考文献	p91

おわりに

濱中 新吾クラス

地方自治体の中東和平プロジェクト

課題

I.	法政アクティブリサーチ・浜中クラスの問題提起	p.93
----	------------------------	------

中東和平問題の歴史的背景（岸本辰斗、伊藤寛雅、小野大地）

II.	パレスチナ・イスラエルの成り立ち	p.94
III.	パレスチナ分割の歴史	p.99
IV.	オスロ合意以降の経緯	p.102

中東和平プロジェクトと京都府で実施主体となった自治体

綾部市（江濱架夢維、壽系祐太、上原航平）・京丹後市（伊藤将大、江原涼、吉村竜一）

V.	中東和平プロジェクトについて 総論	p.106
VI.	中東和平プロジェクト 綾部市 2010 年の活動を中心に	p.108
VII.	中東和平プロジェクト 京丹後市	p.117
VIII.	京丹後市多文化共生推進プラン	p.122
IX.	京丹後市の中東国際交流参加	p.125

結論

X.	法政アクティブリサーチ・浜中クラスの結論	p.128
----	----------------------	-------

石塚 武志クラス

新たな路上喫煙問題 変わりつつあるタバコと規制について

I. 調査動機	p.131
II. タバコ本体の害について	p.132
III. 歩きタバコの危険性	p.134
IV. わが国のタバコ規制・対策の現状	p.135
V. 海外のタバコ規制	p.137
VI. 加熱式タバコについて	p.139
VII. 横浜市空き缶等及び吸い殻等の散乱の防止等に関する条例（横浜市ヒアリング）	p.140
VIII. 京都市路上喫煙等の禁止等に関する条例（京都市ヒアリング）	p.146
IX. 横浜市と京都市の比較	p.150
X. 私見	p.152
質問状・ヒアリング結果の概要	p.153

制度から見た性的少数者の現状と未来

I はじめに	P.161
II 調査動機	P.163
III 渋谷区	P.163
IV 世田谷区	P.174
V 宝塚市	P.184
VI おわりに	P.195

今川 嘉文クラス

事業承継における多様な課題の分析と新たなスキームの提案

I 本調査の目的	p.202
II 吉野家ホールディングスの経営戦略と次世代への承継 ～安部修仁会長への取材から～	p.203
III 事業承継における民事信託の具体的活用と課題検討 ～司法書士法人ソレイユ、株式会社ヒタチスプリングへの取材から～	p.211
IV 1300年継続企業にみる経営理念と時代対応 ～株式会社善吾楼 46代法師善五郎氏への取材から～	p.227
V 経営承継円滑化法の利用に係る課題解決 ～株式の相互過半数保有の会社への取材から～	p.231
VI 事業承継における譲渡制限株式の評価算定 ～株式の評価算定事案に係る会社への取材から～	p.248

VII	種類株式の多様な活用実態と課題検討・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p.257
	～優先配当株式の採用企業の取材から～	
VIII	厚生労働省 労働保険審査会による審査の実態・・・・・・・・・・	p.262
	～品田充儀会長への取材から～	
IX	取材参加者による調査報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p.265
	～各取材参加者による考察～	
X	事業承継の視点・・・・・・・・・・・・・・・・・・	p.277

おわりに

今川 嘉文